

平成 29 年度事業計画

公益財団法人日本鳥類保護連盟

平成 29 年度事業計画 目次

I. 基本方針	2
II. 事業	2
1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動	2
(1) バードピア推進事業	2
(2) 愛鳥週間関連事業	2
(3) その他普及啓発事業	3
2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業	3
(1) 自主調査・研究事業	3
(2) 受託事業	3
3. 鳥類保護の国際協力に関する事業	4
(1) リトアニアとの協力事業	4
(2) フィリピンにおける自然保護活動	4
(3) 日露渡り鳥保護協力事業	5
4. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体の功労の表彰に関する事業	5
(1) 功労者表彰	5
(2) 第 52 回全国野生生物保護実績発表大会	5
5. 組織及び運営の拡充に関する活動及び事業	5
(1) 機関紙「私たちの自然」	5
(2) 支部報	5
(3) ホームページ・連盟案内	5
(4) 活動 P R	5
(5) 寄付活動	6

I. 基本方針

平成28年度までは収支のバランスがとれていない状態が続いたため、平成29年度から複数年をかけて収支バランスが取れるような体制に変えていく。平成29年度は、職員それぞれがそれを自覚し、そのうえで事務局の体制を再検討する。

1. 新たな事業を実施できるよう、適切な部署に人員の補充を検討する。なお、平成30年度以降は、平成29年度の収支状況を見ながら、より収支バランスが取れるような体制へと変えていくことを検討する。
2. 連盟の柱となる公益に資する事業を活性化させ、それを元に寄付を募る。
3. 現状において、会員の高齢化が進み、会員の減少に伴う会費収入の減少傾向が止まらない中、将来に向けてより一層幅広い年齢層へ連盟の魅力ある活動を発信し、会員獲得を目指していく。
4. 助成金等の獲得においては、従来からの国内企業のみならず国外企業に対しても、今までの実績を十分活かしながら助成金申請を進めていく。

II. 事業

1. 鳥類等の野生生物保護及び自然保護の精神を育成するための普及啓発活動

(1) バードピア推進事業

バードピアマニュアル、ホームページ等を活用して、団体や個人登録者を増やしていくとともに、登録者への普及啓発を推進する。

(2) 愛鳥週間関連事業（愛鳥週間 平成29年5月10日～5月16日）

① 第71回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」

平成29年5月14日（日）に静岡県熱海市において、環境省、静岡県、熱海市との共催により開催する。

② 平成30年度愛鳥週間用ポスター原画コンクール

愛鳥週間用ポスターの原画を募集し、連盟総裁賞他各賞を選定

する。

③ 愛鳥週間関連各種普及啓発行事

自然観察会、探鳥会、愛鳥ポスター展示及び表彰等、普及啓発のための行事を本部、支部で開催する。

(3) その他普及啓発事業

① 『ヒナを拾わないで!!』ポスターキャンペーン

関係2団体と連携してポスターを作成、配布する。

② 全国一斉テグスひろい

5月1日から10月31日の間で実施し、結果を機関誌、ホームページに掲載する。

③ 巣箱架け

巣箱の組み立て、架設を親子で行う巣箱教室や、巣箱架けに関するイベントを実施する。

④ 探鳥会、自然観察会等

子どもをはじめ一般の参加を募り探鳥会、自然観察会・体験活動やツバメ等の一斉調査などを実施する。

⑤ 普及教材の販売及び開発

企業と共同開発した野鳥用の餌のバードピア事業と併せ販売を拡大するとともに、給餌時期、方法などについて普及啓発活動を併せて行う。また、ピンバッジ、音声再生・録音ペン等の既存の普及教材の普及拡大及び教材の改良を推進する。

2. 鳥類等の野生生物保護に関わる調査研究事業

(1) 自主調査・研究事業

① コアジサシの調査研究

以下のコアジサシの調査・研究をコアジサシ研究センター（以下、センター）で実施する。

a. 三井物産環境基金（研究助成）による助成事業

平成28年度から3カ年の助成で進めているため、平成29年度もセンターとして調査を実施する。

「絶滅危惧種コアジサシの越冬地・渡りルート^①の把握と保全のための活動」

b. 科学研究費助成事業（科研費）による助成事業

センターの研究員が科研費の平成 28 年度から助成金を受けているため、センターとして調査に協力・実施する。

c. リトアニア教育大学とのリトアニアにおける共同研究事業

平成 29 年度は過年度にコアジサシに装着したジオロケーターと GPS の回収をするほか、コアジサシ等の河川で繁殖する鳥類の保全を呼びかけるためのリーフレットづくりと説明会をリトアニアで開催する。これらはイオン環境財団の助成により実施する。

② ワカケホンセイインコの調査研究

ワカケホンセイインコのねぐらが分散したこともあり、分布に変化が見られ始めている。平成 29 年度は分布、繁殖環境等の調査を実施する。地球環境基金に助成申請中。

③ アメリカとの共同研究事業

現在アメリカの研究者と共同事業ができないか調整をしており、対象種は未定であるが、今後テーマを決めて共同事業をすることを検討する。

(2) 受託事業

サントリーホールディングス株式会社からの天然水の森の鳥類調査をはじめとして、鳥類調査等を受託し実施する。受託事業は積極的に行うことを検討する。

3. 鳥類保護の国際協力に関する事業

(1) リトアニアとの協力事業

コアジサシの調査・研究事業に加えて普及啓発用のリーフレットの作成や説明会を開催し、自然保護の基盤づくり及び保護思想の普及啓発に寄与することを検討する。

(2) フィリピンにおける自然保護活動

平成 28 年度から中古双眼鏡の募集を実施しているほか、フィリピンを

舞台とした助成金を申請中である。今後もフィリピンでの協力事業を推進し、連盟の中心的な活動となるよう検討していく。

(3) 日露渡り鳥保護協力事業

ロシア科学アカデミーとの渡り鳥の保護に関する協力及び青少年交流を富山県支部で実施する。

4. 鳥類等の野生生物保護に関わる個人及び団体の功労の表彰に関する事業

(1) 功労者表彰（第71回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」）

環境省との共催により、野生生物保護等に功労のあった個人・団体を表彰する。

(2) 第52回全国野生生物保護実績発表大会

環境省との共催により全国の小・中・高校・団体の活動実績及び発表を審査、表彰する。

5. 組織及び運営の拡充に関する活動及び事業

(1) 機関誌「私たちの自然」

発行回数：年6回

発行部数：2,500部

配付先：会員、愛鳥モデル校、自然保護団体、都道府県自然環境担当部局及び教育委員会等。また、広報活動の一環として各種行事（野鳥保護のつどい、ジャパンバードフェスティバル等）において無料配布。

(2) 支部報

神奈川県、富山県、石川県、山梨県及び茨城県の各支部において、支部報「ふれんどりー」「らいちょう」「朱鷺」「うぐいす」「かわせみ便り」をそれぞれ発行し、地域の愛鳥思想の普及啓発を推進する。

(3) ホームページ・連盟案内

機関誌と並ぶ情報発信ツールとして活用し、会員獲得と一般の方々へのアピールにつなげていく。

(4) 活動PR

我孫子市での「ジャパンバードフェスティバル」などのイベントに

参画し、連盟活動のPR及び愛鳥思想の普及啓発を行う。

(5) 寄付活動

普及啓発活動および調査研究事業を円滑に行うため、使用済み切手の募集、巣箱事業等の各事業に対する寄附など、個人や企業を対象とした物品を含む寄附を募る。